

氏名： 青木 紀久代 (AOKI Kikuyo)  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
学位： 心理学 (博士)  
職名： 准教授  
専門分野： 臨床心理学、発達心理学、精神分析学  
URL： <http://www.develop.ocha.ac.jp/aoki.html>  
E-mail： [aoki.kikuyo@ocha.ac.jp](mailto:aoki.kikuyo@ocha.ac.jp)

#### ◆研究キーワード / Keywords

子育て支援/学校メンタルヘルス/コミュニティアプローチ  
child-care support / school mental health / community approach

#### ◆主要業績

総数 ( 46 ) 件

- ・青木紀久代 2008 親-乳幼児心理療法における精神分析的発達理論と愛着理論—インターフェイスとしての間主観的観察— 精神分析研究 52(1), 41-53.
- ・谷田征子・青木紀久代 2007 乳幼児をもつ妻からみた夫婦間の相互性—夫婦間の相互性のタイプと不公平感との関連— 心理臨床学研究 25(4), 408-418.
- ・酒井朗・青木紀久代・菅原ますみ (編著) 2007 子供の発達危機の理解と支援—漂流する子ども— お茶の水女子大学 21世紀 COE プログラム 誕生から死までの人間発達科学第3巻 金子書房
- ・青木紀久代 (編著) 2007 発達心理学—子どもの発達と子育て支援— (株)みらい
- ・青木紀久代 (代表) 2007 学校場面における非行・メンタルヘルスの包括的アセスメントツールの開発と臨床活用 平成16年度—平成18年度科学研究費補助金 (基盤 B) 研究成果報告書

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

臨床心理学の蓄積を一個人心理療法からコミュニティへのメンタルヘルス支援・心理教育へと発展的に活用するためのシステムを構築することを目指した実践研究を行っている。例えば、対象となるコミュニティ独自の問題を把握するためのアセスメントツールの開発・アセスメントに基づく処方箋の適用・一定の実践及び事後評価を一貫して展開する。

研究は、保育園協会、学校、教育委員会、あるいは就学援助を行う N G O など、問題解決のニーズのある団体との協働となる。このようなスタイルで、2007 年度に行った主な研究プロジェクトは、次の4つである。①学校力に着目した心の健康と発達支援②フィリピン・セブシティスラム地区の就学前児童における E C C D (幼児の早期ケア発達支援) 縦断研究、③子育て支援者の専門研修プログラム開発、④子育て支援現場に適合する愛着形成不全問題への心理臨床的介入技法の開発

I am preceding practical studies with the aim of constructing systems in which we can progressively apply the accumulated findings in the field of clinical psychology and individual psychotherapy to mental-health support or psycho-education in community. For example, I continuously conduct a study to develop an assessment tool for grasping the problems uniquely exist in the targeted community, to apply the remedies based on the assessment and to evaluate the specific practices. Studies are collaborated with groups, such as nursery school association, schools, school board or NGOs, where problem solution is needed. In this way, four main research projects preceded in 2007 are as follows: 1.Promoting children's mental health by focusing on the school power.2.A longitudinal study for early childhood care and development (ECCD) in a slum area in Cebu, Philippines, 3.Development of professional training programs for parenting supporters, 4.Development of clinical intervention techniques for tackling problems in the formation of attachment which are appropriate for parenting support services.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

生涯発達上に起こるさまざまな心理的不適応の問題の理解と対応を、実践知と実証知の双方から学ぶことをテーマにしている。学部では、発達臨床心理学、心理臨床学、臨床心理学基礎実習、等の授業を担当した。大学院では、カウンセリング特論・発達臨床心理学特論などを担当し、心理療法の個人指導及び実践研究を主とした修士論文指導を行った。博士後期課程では、在籍学生の全てが臨床心理士資格を有し、児童相談所、子育て支援センター、学校、クリニックなどでの専門職としての臨床経験を活かしながら、臨床研究に取り組んでいる。全ての学生が、学会発表と論文の執筆を行った。又、2名の学生が、常勤の研究職に就き卒業した。

The main theme to study is to understand and correspond to various psychological maladjustments during life-course development from clinical practices and empirical knowledge. For undergraduate programs, I was in charge of Development and Clinical Psychology, Clinical Psychology, Fundamental trainings of clinical psychology and so on. For graduate programs, I was in charge of Counseling theories, Developmental and Clinical Psychology and so on, and supervised individual counseling cases and master's theses. In the doctoral programs, students all acquired the certified clinical psychologist, and are working on their studies while making use of their specialized work experiences at clinical settings, such as child counseling centers, parenting support centers, schools, and mental clinics. All students presented their researches at conferences and submitted papers. And two of them graduated and became full-time scholars at institutes.

## ◆研究計画

現在4つのプロジェクトは、それぞれの成果をふまえ、発展している。例えば、学校メンタルヘルス関連のプロジェクトは、2008年度より、韓国との共同研究を行う。子育て支援プロジェクトは、子ども虐待への対応を含んだ臨床研究として、研究助成を受け、乳児院での家族再統合の研究に着手する予定である。

## ◆メッセージ

臨床心理学の中でも発達臨床心理学の発想は、治療的アプローチを用いながらも、もっと発達促進的で、育ち合う関係作りを重視します。カウンセリングルームに自ら訪れ、自分の悩みをじっくりと語ることができ、心の内面を癒し、自己成長できる人というのは、ある意味では、恵まれた支援環境にある人だとも言えます。世の中には、援助の必要な人は沢山いますが、全ての人を救うことはできないし、また支援者自身も、実は、沢山の援助を必要とします。ありもしない「万能な支援者」という錯覚に陥ることなく、学部時代は、「心の援助」の基本を、広く学び、また他者に助けられながら育っている私たち自身を自覚しながら、卒業後、様々な生活シーンに役立つものをつかんで下さい。大学院に入って、臨床心理士を目指す人達、あるいは、すでに専門家の人達には、在学中に、是非自分たちの心理臨床活動のイメージの幅を広げ、創造的な援助スタイルを見いだして頂きたいと思います。